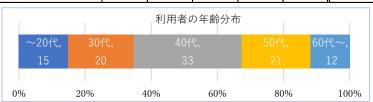
平成 31 年度(令和元年度)社会福祉法人 JHC 板橋会事業報告書

1. 主な実績等(利用者数)

事業内容	事業所名	利用者年齢層					合計
		~20代	30代	40代	50代	60代~	
地域活動支援センター1型	スペースピア(地活)	10	45	59	62	44	220
指定相談支援事業所	スペースピア(計画)	12	24	42	34	11	123
板橋区精神障がい者ソーシャルハウス事業	サン・マリーナ	2	14	28	23	18	85
障害者就業・生活支援センター	ワーキング・トライ	34	121	161	87	21	424
	合 計	58	204	290	206	94	852



事業内容	事業所名	利用者年齢層					合計
		~20代	30代	40代	50代	60代~	
就労継続支援B型	JHC大山	0	6	7	9	1	23
	JHC志村	2	1	7	5	9	24
	JHC赤塚	3	6	7	3	1	20
	JHC秋桜	4	3	8	4	1	20
就労移行支援・就労定着支援	プロデュース道	6	4	4	0	0	14
	合 計	15	20	33	21	12	101



事業内容	事業所名	定員
外部サービス利用型共同生活援助	レヂデンス虹	7

2. 職員数 (JHC 板橋会全体、令和 2 年 4 月 1 日現在)

雇用形態	人数			
常勤職員	34			
非常勤職員	18			

3. 法人本部の活動報告

法 人 本 部

例年、法人本部は、JHC 板橋会という組織を支える屋台骨として、各事業所の活動が円滑に進められるよう業務を進めていますが、平成 31 (令和元) 年度は、週・月単位のルーティン業務に加えて、下記の取り組みに時間を割いた年度でした。

【本部ビル 大規模修繕工事 実施】

・平成9年、ときわ台の地にJHC 板橋会ビルを築いてから、1度も大規模修繕工事を行っておらず、ここ数年建物の劣化が際立っていました。平成30年度より大規模修繕工事に向けて、具体的な計画を立て始め、令和元年5月初旬、近隣住民への挨拶や板橋区内関係機関へ連絡などの対応を行い、約2カ月の工事期間を経て、7月下旬、無事に大規模修繕工事を終えることができました。ご協力の程、誠にありがとうございました。

【新型コロナウィルス感染拡大を防ぐために】

・令和 2 年 3 月中旬、「決議の省略」という形で、初めて理事会・評議員会を開催。また、法人として活動自粛(メンバーの自宅待機、職員の時短勤務など)に取り組むなど、世の中の動きを注視し、未知の感染症と向き合いつつ、職員・メンバーの安心 & 安全を第 1 に考えながら、法人運営の舵取りを行っています。

本 部 Show Room Café すまいる (中尾建設工業㈱会社1F)

【営業時間】毎週火・金曜日 10:00~:15:30

【事業内容】

・『パートナーシップをよくするヒント』を基盤にして、民間企業である中尾建設工業(株)の社員の方々と共同しながらコミュニティカフェの運営を行っております。下記のような様々な企画や講座を開催して地域交流を創出しながら、JHC板橋会及びカフェすまいるの宣伝も行っております。おかげさまで地域のつながりも年々増え、高齢者デイサービス「ケアリッチ」さんの定期利用や、徳丸福祉園さんのコーヒー豆を使ったコーヒーを提供させていただいております。

【企画・講座】(人数は延べ人数)

1. JHC 板橋会企画

ピアノ講座(月1回・25名)、七夕・クリスマスコンサート(歳時毎・77名)

2. 中尾建設工業株式会社企画

オペラコンサート (月1回・383名)、ミニコンサート (随時)、フラワーアレンジメント講座 (月1回・127名)

3. その他

福祉の森サロン(月1回・248名)、近隣の高齢者サービス、町会の打ち合わせなど

※ 新型コロナウィルス感染症対策のため、令和 2 年 3 月から営業を自粛させていただいております。 再開時期等詳細は、「中尾建設工業(株)会社」または「JHC 板橋会」のホームページでご確認お願い致します。

就労継続支援 B 型事業所 JHC 大 山

【生産活動】

- ・清掃事業では、公園清掃以外の清掃現場への参加希望者増を目的に、実際の清掃と同じ練習を 所内でできる時間を設けたり、月 1 回の清掃ミーティングを実施しました。ミーティングでは、 感染症対応の衛生清掃の現場に出ているメンバーから、現場の様子や研修の話を聞く機会等を 設け、新たに3名のメンバーが研修を受講し、練習を積んでいます。
- ・駄菓子屋 縁では、他事業所の協力のもと、バルーンアート体験コーナーを実施しました。4月の周年イベントでの飾り付け、12月のバルーンでのクリスマスツリー作成など、店内の賑やかな雰囲気作りにもご協力いただきました。10月からの、消費税増税に伴い、何度もメンバーとミーティングや学習会を重ね、消費税対応の練習を行いました。

【利用者支援】

・食生活の偏りによる生活習慣予防のため、毎週火曜日に栄養バランスを考慮した一品料理作りを 行いました。毎月の看護師による健康相談や、季節ごとに体調管理のための講座を実施し、健康の ための環境づくりに取り組みました。

【その他】

- ・板橋第一中学校より、8月に2名、2月に3名の職場体験実習生受け入れを行いました。
- ・新型コロナウイルス対策により、3/27~メンバーの活動自粛を行いました。

就労継続支援 B 型事業所 JHC 志 村

就労継続支援 B 型事業所として、生産活動の場の提供を通し、生活支援・就労支援を行います。 バッグやポーチ等の縫製や販売等の仕事を通し、ひとりひとりが自分らしい人生、より豊かな地域生活 を実現することを応援しています。

ボランティアさんはじめ、応援してくださる方々のおかげで、蓮根から志村坂上への移転、縫製事業の安定や内職等の生産活動の拡がり、余暇活動も楽しむことができました。

【移 転】

- ・全員で何か所も内覧し、一番良いところに移転できました。
- ・駅の近くで通勤の便が良い、銀行やお店も近く、仕事も休憩時間も充実しています。
- ・広々としていて動きやすいです。駐車場やエレベーターもあり荷物の搬入出がしやすくなり、 内職もできるようになりました。

【生産活動】

- ・新しい仕事も教えてもらえる安心感があり、ミシンや販売に挑戦する人が増えました。
- ・KURUMIRU参加を通し、製品の質や検針の意識の向上につながりました。
- ・日本セルプセンターとの出会いから、内職の仕事も増えました。

【1 泊旅行・日帰りレク】

- ・季節やその土地のものに触れながら親睦を深め、日常の雰囲気の良さにもつながりました。
- ・1 泊旅行では帰宅時間を気にせず、ゆっくり過ごせる良さがありました。

就労継続支援 B 型事業所 JHC 赤 塚

【生産活動】

・販売先での出店、週末等のイベント販売にも積極的に参加し、お菓子の製造・販売の機会の維持に努めました。10月より、消費税増税に伴う経費増に対し商品の価格変更を実施しました。栄養表示法改正に伴う表示切り替え準備をしました。メンバーと共に研修に参加し、食品の分量の割り出し計算など業務が広がりました。昨年度の商品開発研究会で発案のあったクッキー2種(塩バター、ソルト&ペッパー)の商品化が実現しました。

【利用者支援】

・日々の活動を共にする中で、やりがいを共有し、必要時には個別の相談等に応じました。昨年度 に作成した、生活リズム表や、作業・生活力チェックリストを活用し、できていること、もっと 良くしたいことの振り返りや目標設定に役立てて下さるメンバーもいました。

【その他】

- ・赤い羽根共同募金会 A 配分申請により、東商社会福祉基金より軽車両の寄付をいただきました。 東京商工会議所での贈呈式に理事長、メンバーと出席しレプリカキーを持っての記念撮影は思い 出になりました。軽車両は日々の販売、納品、利用者支援など、幅広い場面で大活躍しています。
- ・昨年度の総括で皆と共有したこと(電話学習会、接客学習会、バスレクやランチ会の開催、生産活動用のパソコン増設など)を少しずつ実践に移せた一年でした。週替わりの店頭用看板ボードの書き換え、店頭にきれいに花を植える活動も定着しました。大きな変化ではないけれど、小さな継続や定着が成果につながったと感じました。

就労継続支援 B 型事業所 JHC 秋 桜

【生産活動】

・ミーティングでメンバーからの提案があがることが多くなりました。スペシャルメニューの企画・製造に取り組み、パーティー料理などの注文は少なかったですが、売上増につながりました。 また、お客様の声を聴き、より良いお弁当作りをしようということを再確認し、アンケートの作成 に取り組みました。

【利用者支援】

・仕事の役割に入るハードルを下げる為、"日替わり弁当の月間メニュー作成"と"在庫チェック"のマニュアル化を行いました。これまで関わっていなかった仕事へもより多くのメンバーが関わるようになり、それぞれの仕事の幅が広がりました。結果的に在庫チェックの頻度が上がり、必要な分量を正確に出すことにつながりロスを減らすことになりました。

【その他】

・日本精神障害者リハビリテーション学会第27回大阪大会に参加し、「どうやって日替わり弁当を作っているんですか」というテーマでポスター発表を行いました。ポスター発表の準備段階から、ミーティングを重ね、日頃の活動内容を振り返り、ポスターの構成も皆で行いました。当日学会に参加して発表するメンバー以外も、一緒に準備に取り組むことで、皆が一体感を持って関われました。また、日頃の仕事を構造化し理解を深めたことで、メンバーそれぞれが自己肯定感を高めることにもつながりました。

板橋区精神障がい者ソーシャルハウス事業 クラブハウス サン・マリーナ

メンバーの主体性に基づき2つのユニットに分かれて個々のエンパワメントに繋がる活動を中心に 取り組んでいます。

- ○元気応援ユニット…今年も所内だけではなくメンバーが私生活の中でも簡単に達成できる健康管理の目標設定や、家庭でも気軽に作れる栄養あるメニューを意識的に取り組みました。
- ○運営維持管理ユニット…自分が使用しているロッカーを間違えてしまう人が多かったので、個人名のマグネットを作成したところ好評でした。また、メンバーの能力、強みを生かしたユニットニュースの編集作業により自分達の活動を啓発する意識が生まれました。

【クラブハウス国際認証3年取得】

・一昨年クラブハウス国際認証を受け、何点か推奨事項が挙がりました。1年間改善に向けて取り 組んだ結果3年認証にアップグレードすることができました。

【諮問委員会の開催】

・2 度開催し、クラブハウス国際認証の報告や諮問委員会規約の見直しを行いました。

【プログラムの増加】

・朝活(所内で朝食を取ることがメイン)クラブや夕方プログラム、パソコン講座などメンバーの ニーズに合わせたプログラムを増やし、サン・マリーナの活動がさらに拡がり、夕方、週末、祝日 の開所を増やしたことで就労メンバーの参加増加や、連休による孤立を防ぐ効果に繋がりました。

外部サービス利用型共同生活援助 レヂデンス虹

レヂデンス虹は、『親離れ子離れ』を大きな目標に、利用者の皆さんが将来地域社会で自立した 生活を営むための生活基盤づくりに励むグループホームです。

定員は7名、3年間の利用期限があります。年齢層は20~40歳代で、建物はアパートタイプの男女混合型です。平成31(令和元)年度は新規入居者2名、退所者1名の入れ替わりがあり、総利用者数は8名でした。

【トピック】

① ユーザー会議での体験発表

利用2年目の利用者2名の方が、GH生活の思い出作りの一つとして、職場、学校生活や主治医との関係などの貴重な体験談を発表されました。ユーザー会議記録集が完成し、自身の発表原稿を読めることを楽しみにされています。

② 活発な部活動

ホーム内の人間関係が豊かになってくると、趣味が同じ方々が誘い合う機会が増えました。 そこでホーム全員に声掛けようと提案者を「部長」、「映画部」「散歩部」「水泳部」などの様々 な企画を部活動と称しました。映画や運動、食事に出かけるなど様々な部活動が提案され、休 日の過ごし方に課題があった方のヒントになり生活リズムを整えたり、ストレス発散の機会に なったりしました。

就労移行支援・就労定着支援事業所 社会就労センタープロデュース道

事業所内訓練、企業実習等の準備訓練、学習会の機会を提供し、**どんな仕事に就いても大丈夫な体力とタフさ**を身につけ、**長く働き続ける力**をつけていくことを支援しています。

【取り組み】事業所内訓練実施 236 日、 施設外就労訓練実施 214 日

- ・事務作業体験として、運営しているカフェの出納帳管理や伝票表記等を行なうことで、実際に即 した会計等の事務を体験することができました。
- ・毎月、振り返りシートで自己評価と他者評価に向き合い、翌月の目標を立てることで、主体的に 訓練へ取り組む意識づけができました。

【利用者の特徴】就労経験がない方5名、就労経験のある方が9名、精神保健福祉手帳取得者9割

- ・平均年齢33歳、20代の利用者が目立ちました。
- ・他の就労移行支援から就労し退職後、再度、移行支援の訓練を希望されて利用し、再就労する事が出来ました。

◆法人事業説明会にて、就労移行支援と就労定着支援事業の実際と体験談を報告

・訓練や作業のねらいや意義、支援の目的を紹介。利用者、支援者(保健師、相談支援事業所、 プロデュース道)の専門性を発揮したそれぞれの役割や連携の実際を報告しました。

◆ジョブサポートプログラム 年間 45 回開催、企業見学 4 社

・一般企業、特例子会社、就労継続A型事業所を見学し、それぞれの特性や特徴を理解、企業が どのような準備を求めているのかを知り、日頃の訓練との連続性を高めてきました。

指定相談支援事業所(地域活動支援センター | 型) スペースピア

【地域活動支援センター】

- ◎年間延べ利用者数 5,488 名、地域会員ボランティア延べ利用数 434 名
- ・ピア広場 (フリースペース)、趣味文化サークル、運営ミーティング等を実施しました。メンバー ひとり一人に合わせた自由な参加によって、日々の楽しみや生きがいにつながっています。
- ・様々なご支援をいただき、令和元年5月~7月の本部ビル改修工事を無事に終えました。改修した外壁や屋上により、10月の大型台風にも耐えられました。また、壁紙や照明、床も新しくなり、明るくなった室内では、快適かつ安全に趣味文化サークルやピア広場等を運営できるようになりました。
- ・改修工事期間には、法人内事業所見学や土曜日にサン・マリーナをお借りして開所をしました。 各所の様子を知る機会となり、後に他事業所の利用や、将来の利用先として検討することにつな がりました。

【相談支援事業(基本相談)】

- ◎年間延べ相談件数:9,079件 (内訳:当事者、関係機関、家族、地域)
- ・生活相談を中心とした日常の困りごとや心配事の相談が多く寄せられました。中でも、内科的な合併症のあるメンバーへの対応が増え、緊急で通院同行や入院対応などの多い一年でした。夏には熱中症対策、冬には感染症予防、他にも衣食住・服薬などの支援を、関係機関や地域の皆様と連携を密にして対応しました。

%新型コロナウィルス感染症対策のため、 $3/4\sim3/31$ はピア広場と相談のみ開所。

指定相談事業所(計画相談/地域移行/地域定着) スペースピア

【計画相談支援】

・JHC板橋会のサービス利用者を優先に新規の方をお受けしつつも、支援者からご相談を頂いた 方においては状況に応じてお受けしました。

【継続サービス利用支援】

・モニタリングにおいては必ずご本人の元へ足を運び、サービス状況の確認とともに現場とのコミュニケーションを大切に進めています。

【地域移行支援/地域定着支援】

・その人が希望する暮らしの実現に向けて、オーダーメイドの支援が展開できたことで、制度と制度のつなぎ役となりながら、生活支援を行うことが出来ました。

障害者就業・生活支援センター ワーキング・トライ

利用者相談支援においては**『アセスメントをしっかりおこない、地域の各関係機関と連携し、ミスマッチのない送り出しを行うこと』**そして、**『継続的かつ切れ目のない定着支援を行うこと』**を心がけ、

目標値:就職者30件 ⇒ 30件、職場体験実習40件 ⇒ 38件 に達しました。

【利用者の特徴】

- ・精神障害、発達障害、高次脳機能障害(精神保健福祉手帳所持者)がり割となっています。
- ・新規登録者の約半数は定着支援からのスタートであるため、"本人を理解すること"と、"職場や家庭での課題を解決すること"が同時進行となっており、難しい支援を迫られています。

【東京都 受託事業】

- ・中小企業障害者雇用応援連携事業:目標訪問件数 150 件 ⇒ 実績 169 件
- ・精神障害者就労定着連携促進事業 ①連絡会事業:年 4 回開催 ⇒ 3 回実施 202 名参加(6/28:88 名、9/27:67 名、12/6:47 名、(2/21 合同連絡会は新型コロナウィルスの影響で中止)、事務局会議年 8 回 開催 ⇒ 年度内 9 回開催 ②研修事業: 2 日間研修を年 3 回開催 ⇒ 第 1 回 7/24~25、第 2 回 10/24~25、第 3 回 1/22~23 参加者合計:延べ 217 名

◆出張就労準備学習会、出張作業体験会 開催!

- ・就労移行支援事業所、B 型事業所、医療機関デイケアなど 14 箇所 18 回、当事者 252 名、職員 64 名、 見学者、家族 14 名 計 330 名に対して学習会や作業体験会を行いました。
- ◆16 年連続『あなたの就労を応援します~JHC 板橋会就労支援事業報告書』発行!!
 - ・今年度は連絡会事業において、「精神障害者のより良い就労/定着/連携に向けた Q&A 集 2 」を作成しました。これら成果物をもって広報活動を行いました。